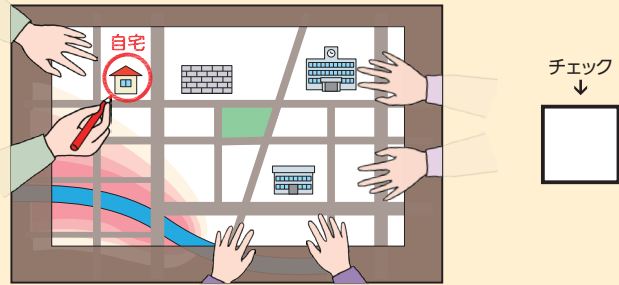


総合防災ブックの使い方

13 ページからのエリア図で、普段から災害リスクを認識したうえで、自分が知っておくべき「危険箇所」「避難所・避難場所」、「避難経路」、「家族との連絡方法」などの必要な情報を書き込んで、「自分だけのハザードマップ」を作成しましょう。

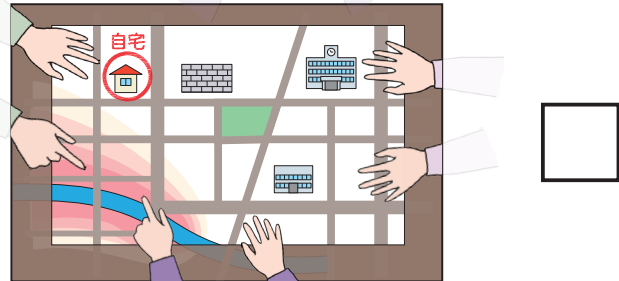
1 自宅の位置を確認する

まず、自宅の位置に印をつけましょう。



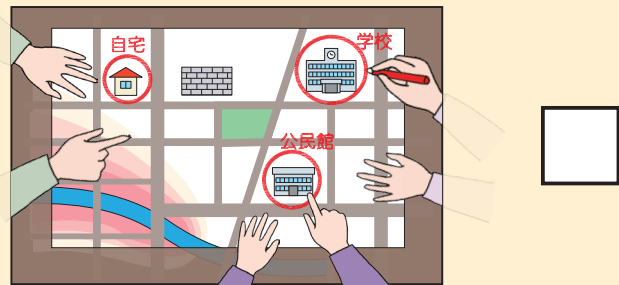
2 津波、洪水、土砂災害などの危険区域を確認する

災害ごとのハザードマップを見て、自宅周辺が災害の危険区域になっていないか確認してください。



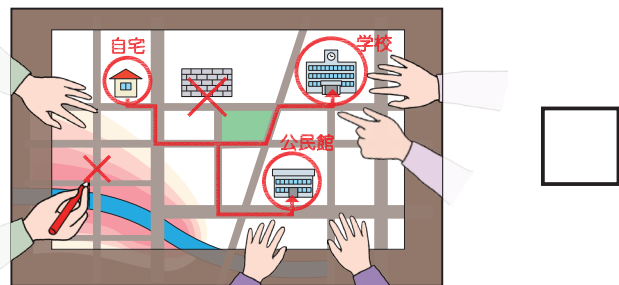
3 避難する場所を災害ごとに確認する

たとえば、津波のときに使用できる避難場所、土砂災害のときには危険なため使用できない避難場所などがあります。35ページの「避難所・避難場所一覧」で、災害ごとの避難場所等を確認するとともに、安全な親戚・知人宅や宿泊施設への避難も考えましょう。どのような災害が起きたときにどこに避難するのか、『最善(ベスト)』の避難所に行けない場合『次善(セカンドベスト)』の避難所はどこにするのか決めておきましょう。



4 安全な避難経路を考える

3で決めた避難所・避難場所までの経路を考えましょう。早めに避難するのが一番ですが、すでに荒天となってしまった場合は「浸水の危険のある場所」を避ける、地震による避難の場合は「ブロック塀等の危険な場所を避ける」など、安全な経路を見つけておきましょう。



5 避難について家族や近所の人と話し合う

「周辺の危険箇所」「避難する場所」「避難経路」などについて、家族や近所の人と話し合っておきましょう。いざというときには、慌てず、声を掛け合って、最善の避難行動がとれるように心構えをしておきましょう。



6 自分たちの目で避難経路を確認する

避難所・緊急避難場所までの経路を、実際に家族や近所の人たちと歩いてみましょう。マップ上では気が付かなかった危険箇所や注意点など記録しておきましょう。



7 避難時の持ち出し品などを準備しておく

36ページの「備蓄品および非常時持ち出し品」を参考に、避難するときの持ち出し品など、必要なものを準備しておきましょう。



避難に関する情報

市が出す避難情報と国や県が出す防災気象情報

洪水や土砂災害、河川の氾濫などの際に、5段階の「警戒レベル」を用いて、避難情報を発令します。警戒レベル3【高齢者等避難】や警戒レベル4【避難指示】が発令された際には、危険な場所から速やかに避難行動をとりましょう。



特別警報

- 尋常でない大雨や津波等が予想されています。
- 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ただちに身を守るために最善を尽くしてください。
- 特別警報が出てからの避難では遅いです。



特別警報の発表基準

現象の種類	基 準	
大 雨	台風や集中豪雨により、数十年に一度の降水量となる大雨になると予想される場合	
暴 風		暴風が吹くと予想される場合
高 潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	高潮になると予想される場合
波 浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大 雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	
津 波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)	
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合(噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域)*を特別警報に位置づける)	
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)	

*噴火警戒レベルを運用している火山では「噴火警報(居住地域)」(噴火警戒レベル4または5)を、噴火警戒レベルを運用していない火山では「噴火警報(居住地域)」(キーワード:居住地域嚴重警戒)を特別警報に位置づけています。

風水害に備えて 大雨情報をキャッチ! こんなときのわが家の安全対策

大雨注意報・警報・特別警報(浸水害・土砂災害)の発表基準

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予想される場合

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合

大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発令されます。

水害時の心得

被害の軽減

扉の下隙間から汚水が入ってくるので、「土のう」や板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎます。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。



危険なところには近寄らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。また、氾濫水には汚水が混ざっているので、子供などがさわらないように気をつけましょう。



水面下は危険です。2人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。



避難所までの移動

風雨が激しくなる前に車か徒歩で避難しましょう。風雨が激しくなったからの車での避難は、歩行避難者・緊急車両の妨げになるばかりでなく、洪水による水没の危険もあるので車の利用は避けましょう。



動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットがある場合はかぶり、はき物は脱げにくいものを選びましょう。長靴は水が入ると足を取られるので避けましょう。レインコートは上下が分かれているタイプで目立つ色のものがよいでしょう。



歩ける深さ男性約70cm、女性約50cm

洪水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmまで。それ以上になったら高い場所で救助を待ちましょう。



川の氾濫等

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

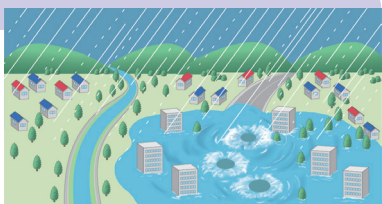
外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増します。ので、最大の注意が必要。

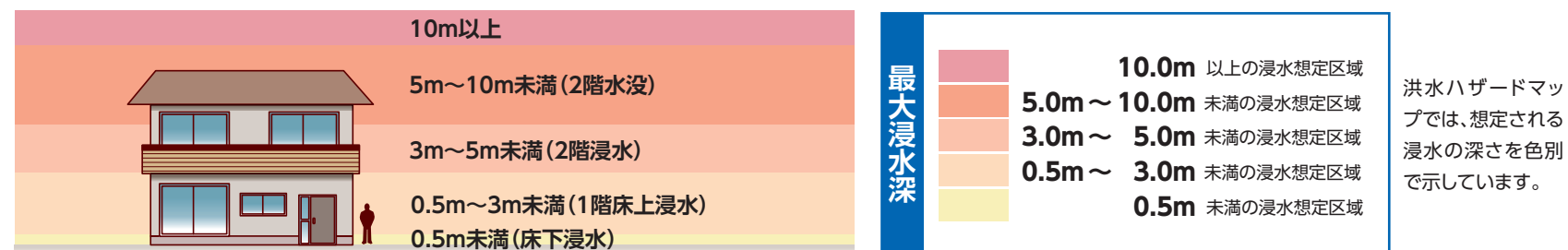


内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれず溜まって起きる洪水。的確なタイミングで警報や避難情報を出すのが難しいため、注意が必要。



浸水の深さについて



土砂災害の種類

土砂災害は大きく分けてがけ崩れ・地すべり・土石流の3種類があります。

がけ崩れ

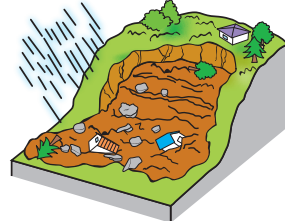
地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、弱くなった斜面が突然崩れ落ちる。日本で最も多い土砂災害で、人家の近くでも発生するため、逃げ遅れて犠牲となる人も多い。



- 主な前兆
- がけからの水がにごる
 - 地下水やわき水が止まる
 - 斜面がひび割れ、変形がある
 - 小石が落ちてくる
 - がけから音がする
 - 異様なにおいがする

地すべり

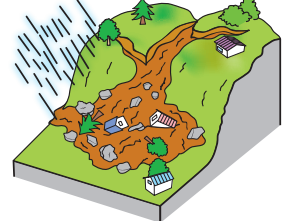
脆弱な地質の土地に豪雨が降り、ゆるくなった斜面の一部が地下水の影響と重力で下方へ移動する現象。一度に広範囲で発生するために、住宅や道路などに大きな被害をおよぼす。



- 主な前兆
- 地面にひび割れができる
 - 井戸や沢の水がにごる
 - がけや斜面から水がふき出す
 - 家やよう壁に亀裂が入る
 - 家やよう壁、樹木、電柱が傾く

土石流

谷や斜面にたまった土や石、砂などが、大雨による水と一緒に一気に流れ出す。強大な威力と圧倒的なスピードで、進行方向にあるものを次々とのみ込み、壊滅させていく。

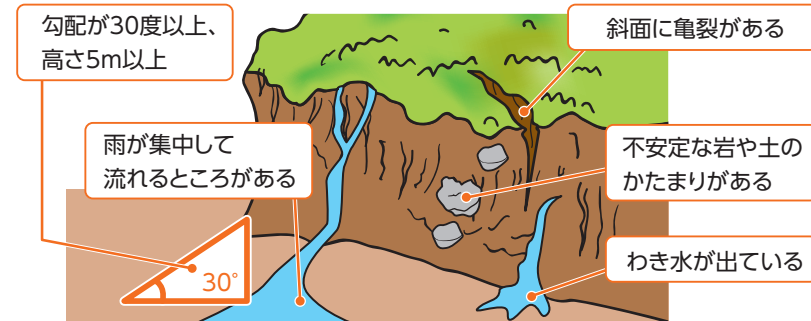


- 主な前兆
- 山鳴りがする
 - 雨が降り続いているのに、川の水位が下がる
 - 川の水がにごったり、流木が混ざったりする

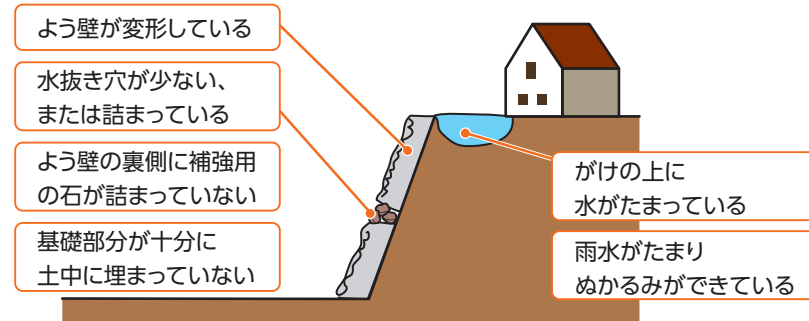
危険箇所をチェックしよう

勾配が30度以上あるがけは、大雨により崩れる危険性が高い場所です。また、がけや盛り土の崩落を防ぐためのよう壁も、その構造や築年数の経過によっては崩れる危険性があります。日ごろから家の周囲をよく見て、危険箇所がないかチェックしておきましょう。

こんな崖に注意!!



こんなよう壁に注意!!



土砂災害警戒情報とは

大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに警戒を呼びかける情報で、千葉県と気象庁が共同で発表しています。周囲の状況や雨の降り方にも注意し、土砂災害警戒情報等が発表されていなくても、危険を感じたら、躊躇することなく自主避難をしましょう。

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

住民等の生命又は身体に**危害が生ずる**おそれがあると認められる土地の区域

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

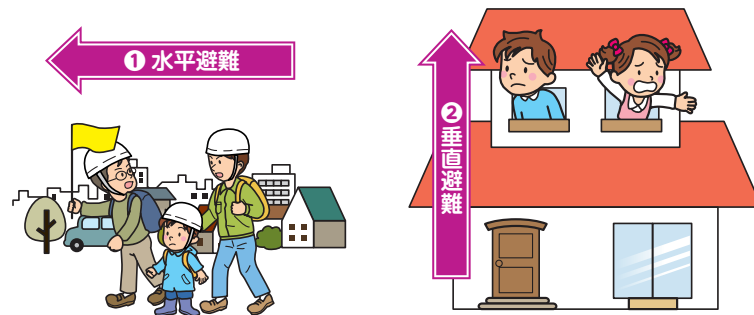
住民等の生命又は身体に**著しい危害が生ずる**おそれがあると認められる土地の区域

気象庁

<http://www.jma.go.jp/jp/dosha/>

避難行動のポイント

- 1 上記の土砂災害の事象に注意し、早めの避難をする。
- 2 がけ崩れや土石流の起こる方向に対して横方向に避難(①水平避難)する。
- 3 立ち退き避難が基本だが、夜中や大雨の中など外へ避難を行うのが危険と感じる時は、自宅2階以上の山の反対側の部屋など堅固な建物の上階へ避難(②垂直避難)することも考慮する。
- 4 記録的短時間大雨情報が発表された場合は、早めに避難を行う。
- 5 土砂災害警戒情報が発表された場合は、すぐに避難を行う。



雨の強さと降り方(1時間雨量:mm)

10～20の雨	20～30の雨	30～50の雨	50～80の雨	80以上の雨
地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなる。長雨になりそうなら警戒が必要。	土砂降りの雨のときは、傘をさしていても濡れてしまうほどの雨。テレビやラジオなどで今後の様子并注意し、長引きそうなら避難を心構える。	バケツをひっくり返したような激しい雨のときは、山崩れやがけ崩れが起こりやすくなる。避難の準備をする。	滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなる。中小の河川は氾濫し、水害発生の可能性が高まる。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要となる。

風の強さと吹き方(平均風速:m/秒)

10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～
風に向かって歩けにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立っていられない。屋外での行動は危険です。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風の大きさと強さの目安

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上